

◆4 週目 振り返り

4 回目の講義、各自真面目にご自宅で取り組まれたことが目に浮かぶようなレポートでした。お疲れ様でした。

4 回目の講義で、もしかしたら、初めて学長の声や顔を知った！という方もいたかもしれませんね。また、明星大学の長く堅実な歩みを知り、ご自身が所属する大学を誇りに思った方も多かったのかなと、みなさんのレポートを拝読して思いました。

みなさんは、明星大学の1年生ですが、私は明星大学の3年生です。まだ、登校していないので、大学の素敵な建物や、すばらしい設備にふれることはできないかもしれません。

ただ、明星大学の本当に素晴らしいところは、素敵な建物や素晴らしい設備ではなく、素晴らしい学生のみなさんと、その学生をサポートすることに喜びを感じる教職員スタッフの存在だと3年目にしています。

幸いにしてか、この授業はコミュニケーションを重視していますので、この授業を通じて、素晴らしい仲間と是非積極的にコミュニケーションをし、「和の精神をもとに世界に貢献できる人」の一步を歩みだしてほしいなと思っています。

初対面の人と、対面もせずにコミュニケーションをとってドキドキですよ。21世紀、いや、コロナウイルスおそろべし、と思うかもしれません。でも、安心してください。明星大学の学生さんは本当に性格の優しい、とてもいい人しかいません。

相手の表面でなくて、心の中というか、根っこみたいのところとコミュニケーションをとると感じることもあると思います。その部分において、明星大学の学生のみなさんは、本当に素晴らしい素質をもっています。相手の根っこを感じるコミュニケーションについて、この授業で一緒に学びましょうね。

私は、みなさんのことをもっと好きになれそうでワクワクしています。以上、所感でした。

柳川

◆5 週目 振り返り

皆さんの好きな〇〇、拝読させてもらっています。23日現在も、書き込みがありますので、コースがある間は好きな〇〇に限らずとも、みなさんの交流の場になればいいと思っておりますので、引き続き書き込んでください。

みなさんの好きな〇〇で、私はいろいろなことを知りました。RPG というゲームがあるのは知っていましたが、その進化したようなもので、かなり創作的なゲームがあること、

BUMP OF CHICKEN って、私の学生の頃人気だったのですが、その人気がどうやら衰えていないこと、サザンばかり、野球観戦好きな方が多いこと（若者はサッカーかと思っていた）、上記以外にも、体を動かすことが好きな方が多いこと、散歩などして、この自粛生活を工夫されていること、知って好きになる一歩ですよ。

私はみんなの素敵なおところをどんどん知って好きになっています。

もし、みなさんがこれから苦手なタイプの人と出会ったら、相手を知ることには注力するといいいですよ(みなさんのことは苦手ではありません。ただ、相手を知ることの素晴らしさを伝えたいだけです)。誰かを好きになったり、嫌いになったりは、根拠がないものだと思います。

でも、相手を知るとは、そこに別の物差しを入れてくれます。嫌いな人を好きになることはなかなかできないかもしれませんが、相手を理解することで、なぜ嫌いな人がそのような言動をするのか理解できます、そうすると、自分の気持ちも整理できます。

なんかネガティブなことを打ってしまいました。知るというのは、いい方向の気持ちをもっとよいものにできますし、ネガティブな方向の気持ちの向きを変えることできる、たぶん人間だけが、持っている能力です。

自然界では、威嚇ということを通じて、争いをさけます。野生のオオカミは決して目を合わせません(調査地のモンゴルで親とはぐれて保護された子供のオオカミに会いましたが本当に目をあわせてくれませんでした！)。目をあわせることは威嚇(戦いの一手手前)だからです。

私たちには言葉があって、コミュニケーションができます。威嚇をしないで、相手を知って、争わない選択ができます。生態学で自然のことを知るたびに、本当に人間に生まれてよかった、頑張ってる生きないとバチがあたるなと思います。

長くなってしまいました。6回目もがんばりましょう！

◆6週目 振り返り

コメントを書き込んでくださったみなさま、お疲れ様です。とても参考になる意見ばかりでした。

3つの状況に関する、マナーの観点からご意見いただきましたが、私自身、不思議というか、「絶対にマナー違反だ！」と断言できないもしくは、一般に結構みかける風景で、どうなのかな、と思っているテーマでした。

みなさんの意見を拝読して、たとえば、「傘は、やっぱりそうだと思いますよね！」と同意し、火事現場の野次馬的行動には、いくつかの考え方があり、どれも間違っていると感じませんでした。レストランでの電話は日本独自の厳しさがあるような気がしました。

どの地域にもマナーがあり、それは文化そのもので、相手を思う気持ちが現れた結果なのだと思います。以前、滞在したエジプトでは、会議中でも、パンパン携帯がなり、大声で話したり、遠慮がちな人は出て行ったりという感じで、厳しいルールはありませんでした。ちなみに一応エジプトで有名なカイロ大学の教授の会議でそんな感じでした。

エジプトの人は議論が大好き、コミュニケーションが何より大好きなので、その文化を肌というか、やかましさに感じました。

日本人はやかましいのが嫌いですよ。でも、なぜか静かな山にいくと「ヤッホー」って叫びたくなりますが。。。逆にこのような大声は欧米では子供であつてもかなりのマナー違反で、ありえないです。マナーを通じて、自身を育てた社会について振り返るのも面白いと思います。

以上、いつもながら、長文所感で失礼しました。

◆9 週目 振り返り

みなさん、文章が大変上手であることがわかりました。また、みなさんのレポートを読んで、PREP の最初の主張は具体的であることが大変重要であることがわかりました。

たとえば、就職率 100%といった、数字で示された主張は大変わかりやすいとおもいました。小説名まで具体的に示した主張もとても印象に残りました。また、「体験」といったキーワードを用いた説明も記憶に残りやすいと思いました。

落語が個人的に好きなので、日本文化学科の落語に関する授業をうけたくなりました。情報学科では Python の勉強をされるということで、私も研究は主に Python をつかいますので、とても興味深く感じました。

そして、各学部、学科で、当たり前ですが、まったく異なる視点での専門的な学びをされていて、1 年生でそのことがちゃんと説明できることにも驚きました。みんなすごい！

みなさんは、大学を卒業すると同時に学士号を取得されます。学びの基礎は哲学です(最高学位の博士号は英語では Ph.D: Doctor of Philosophy です。すべての学問の基礎は哲学であるあることがこのことからわかります、私は PhD (農学)です)。

様々な状況でどのように考え行動すべきなのか、答えがわからない世界で、自分なりの答えを出しながら社会で自分なりの役割を果たせる人が学士号を持つ人だと思います。みなさんが 4 年間される学びで自分の哲学を極めてください。卒業しても、自分なりの哲学を極めることを決してやめないでください。

みなさんのレポートを拝読して、きちんとご自身の哲学の基礎を作っていることが伝わってきました。また、みなさんが ZOOM でのコミュニケーションを学びの場として大変上手に活用できたことも伝わってきました。私たちは今しか生きられませんので(ドラえものの道具はないので)この状況で最大限できることを一緒にしていきたいと改めて思いました。

ブレイクアウトセッションは、ランダムに構成されます。また、途中でネットワークの不良がおきたとしても、LMS でお伝えしている授業リンクからお入りいただければ、再入室できます(前回お伝えしていなくてすみませんでした)。

次回授業でお会いできるのを楽しみにしております。次回参加できなかった人もぜひ ZOOM での講義に参加してみてください

(10 回目の案内を参照のこと)。 柳川

◆11 週目 振り返り

一つの目の設問は、1 回目のジリタイから伸ばせた点をふりかえるものでしたね。毎回の授業の前に復習して臨む（授業移動のないオンラインならではの取り組み！すばらしい！）といったことから、ZOOM の講義の中で、自分にチャレンジをしている方、計画性の部分で、適切なできる範囲の計画を立て、実行できるようになった方、多くの方がご自身の成長を文字にできていました。

2 つ目の設問についてですが、是非みなさん、ほかのメンバーのレポートも相互閲覧機能をつかって読んでみてください。みなさんの強みを一つにしたら、すごいことになると思います。みなさんの異なる強みをいかすことが、社会とか組織運営にどれほど大事か、ほかの人のレポートを俯瞰することでわかるとおもいます。

計画立案が得意な人、親和性がある人、実践力、行動持続性、情報分析力、感情抑制力、協働力、これ以外にもさまざまな特性がありました。自分を活かすための PROG です。無いものではなく、自分に備わっているものに目をむけて最大限いかしてください。この 2 番目の設問と 3 番目の設問は 12 回目の講義の「今の自分」や「今できること」につながるものです。

これまでの講義でご自身の特性を他者や PROG テストといった客観的なテストで理解してきました。この授業では、（4 年間）目標を定めることが大きな課題としてありますが、その時に、ご自身のいいところが活かせる目標を設定してください。

大学を卒業すると、大学のテストの点数のような明確な基準のない、競争社会がまっています。ですので、自分の良いところを活かすしか勝ち目はありません。そして、わずかな勝ち目がありそうな世界の中で、生きていくわけですが、そこで生きながらえるのに必要なのが、自己改善です。まさに自分のダメなところを直す作業です。（しかも、社会にでると、自分の直すべきところを指南してくれる優しい人に出会えるかどうかは運次第です。）

だれでも苦手や欠点があります、そのすべてに目をむける必要はありません。自分を活かす、活かしてくれる世界で欠点となっているところを補うようにしてみましょう。今だったら大学生活でひとまず欠点となるところを改善してみてください。大きな計画も重要ですが、目の前のことを真剣することが大きな目標の達成につながります。

最後に、みなさんのレポートには、希望があふれていますね。本当に素晴らしいです。「私のレポートは希望でもなんでもなくて、ただ設問に答えているだけだ」という方もいるかもしれませんが、でも、希望のないレポートは私には一つもみつけることができません。

コロナのせいで自粛ばかりで、うんざりする中、みなさんがご自身をみつめ、よりよくなろうとすることは、たとえ授業内の課題を消化しているだけであっても、社会の希望であることを忘れないでください。つまり、みなさんは社会の構成員の一人であり、その一人がよくなろうとする、ということは、社会が少しよくなっているということです。

12 回目もがんばりましょうね。

柳川